

中学生のキャリア学習(職場体験)の場として 塩竈市の基幹産業である水産業を学習する

櫻井 隆光(養成講師・宮城県)

実施日：2024年11月7日(木) 7:00～13:30

実施場所：塩竈市魚市場 魚食普及スタジオ(調理実習室)・会議室

学習者：中学生17名

支援者：養成講師1名 水産加工業者2名

連携機関など：塩釜市水産振興協議会

学習目標：地元の中学生在が塩竈市の基幹産業である水産業についての学習を深めることをめざして

- ① 塩竈市魚市場に水揚げされるマグロの生産から流通について知ることを通して、魚と人間と環境の循環への興味・関心をもつ
- ② 塩竈の水産業について知り、塩竈の水産業に関心をもつ

学習の実施内容 次ページ参照

評価(振り返り)

(1)学習者(学習目標)について

評価方法：アンケート、事後カンファレンス

各学習目標の達成状況など

学習目標① 塩竈市魚市場に水揚げされるマグロの生産から流通について知ることを通して、魚と人間と環境の循環への興味・関心をもつ

学習者に魚市場の生産から流通までの役割等の学習を行なった結果、「市場の中では魚を売る人・買う人・出荷する人等、さまざまな業種があることがわかった」と中学生らしい回答があり、生産から流通について知識を習得することができた。また、「探検ノート」p2～3の循環図に塩竈市魚市場を記し、マグロの漁獲、流通から食卓に届くまでを記していくことで、循環図を具体的に理解できるようであった。

学習目標② 塩竈の水産業について知り、塩竈の水産業に関心をもつ

全員が「この体験を通して魚市場の職業に興味をもった」と回答していた。また、マグロの生態や部位については、「塩釜漁港に水揚げされるマグロの種類、漁法がわかった」「マグロは捨てるところがない。いろいろな部位を食べることでおいしさを知った」などの回答があった。水産加工場で、ひと塩タラの製造見学や、アジの3枚おろしなどの体験を行った後で、実際に調理して食べることで、地元の水産加工業についての具体的なイメージを描き、関心を高めることができた。「知らないことをいっぱい体験できて、水産業にたくさんの人が関わっていることに驚いた」との感想があり、塩竈の中学生に水産業に関心をもってもらうことができた。

(2)学習会の準備や実際の運営などについて

中学生の水産業職場体験は毎年実施していることから、連携する水産加工業者とも情報が共有できているのでスムーズに進められた。

今後に向けて

塩竈市は特定第三種漁港の塩釜漁港とそれに隣接する塩竈市魚市場を有し、国内水産業において重要な役割を担っている。しかし、塩竈の中学生は地元の水産業についてほとんど知らない。魚市場を中心にして、たくさんの業種・職業(漁業、卸売業、加工業、小売業、倉庫など)があり、それぞれの役割や生活があることを次世代の担い手である中学生に知ってもらいたい。地域の水産業の拠点である魚市場ならではの活動として、今後も続けていきたい。

 学習の実施内容

時 間	学習目標	学習者の活動	支援者の活動	準備物等
7:00 7:10	①	1 はじまりの会 2 魚学習 ①塩竈市魚市場の特徴など生産流通を学習(10分) ②マグロのセリ場見学、漁獲方法、種類などの学習をする(120分) ③休憩(15分)	「さかな丸ごと」を説明 ●「探検ノート」p2～3を使って、海から食卓までの全体を見て、その中での魚市場を中心とした生産流通の流れを説明する。 ●実際のセリ場にて実物を見て体験学習をする(p12～13参考)。	「探検ノート」 PC 見学用の長靴、帽子など
9:30	②	3 市内水産加工業について学習する(10分) 4 市内水産加工場で実際の加工体験学習を行う(60分)	●「探検ノート」p14～15を使って、市内の水産加工業の特徴を説明する。 ●加工体験の指導は、加工業者に依頼する。	「探検ノート」 工場用の長靴・帽子、手袋など
11:00	②	5 塩竈の主要な魚であるマグロ(丸)を解体し、スーパーに並ぶまでの学習をする。部位の特徴も知る 6 加工場での体験をもとに魚の捌き方実習をする 7 マグロ丼・焼き魚など、自由に調理する	●マグロの準備をする。刃物を使うので安全面に配慮する。丸から、刺し身用の柵にするまでわかりやすく説明する。 ●季節の魚を準備する。学習者にケガがないように注意する。 ●学習者が好きな魚料理が作れるように支援する。	マグロ・季節の魚 調理器具、調味料など 汁物・ごはんは事前準備
12:00		8 共食、片づけ	●温暖化で海が変わったこと、獲れる魚も変わったこと、魚食離れが深刻などの話をしながら、おいしく食べる。	
13:00 13:30	① ②	9 今日の体験を振り返る アンケートへの記入 感想を発表する	●参加者が話しやすいように声かけなどを積極的に行う。 ●学習者の思いを受け止め、課題が出たら次に活かす。	アンケート用紙

